

基本に立ち返って

副会長 比企能信

(日本フルハーフ㈱)・代表取締役社長



巷間では中国の三国志を扱った映画「レッドクリフ」(赤壁の戦い)が流行っているようです。圧倒的な80万の大軍を従え、劉備率いる蜀を攻めんとする魏の曹操。劣勢下に立たされた蜀の軍師諸葛孔明による対応は、利害得失が一致する呉との連携を基軸にしたものでした。曹操軍の戦力分析、兵の士気の高低、主戦場たる地理的条件等々の状況を綿密に把握するなど孔明の冷静沈着な対応は、結果として長江における「赤壁の戦い」をして蜀・呉両軍の圧勝に導くわけです。判官びいきの私としては弱者が知恵や工夫をし、そして強者をやっつけるという胸のすくような場面です。

二世紀末から三世紀後半にかけた魏・呉・蜀の三国による覇権争いは、治世のあり方や戦略、戦術を含め、その後の晋、隋、唐、宋へと多大な影響を与えています。また遠く離れていたとはいえ日本への影響も遣隋使、遣唐使時代を通じ非常に大きかったであろうことは想像に難くありません。現代ビジネスのありかたにおいては、ともすればP・ドラッカーに代表されるようなアメリカ式経営学、例えば企業メッセージや経営ビジョン、経営戦略、人材育成…等々が縷々書物等を通じ喧伝されているところですが、それらの原点は、むしろこの「三国志時代」にあったのではないのでしょうか。そのほうが歴史的にみても、また心情的(アジア人として)にも叶っているような気がします。

さて、昨今のトラック事業環境には周知のように非常に厳しいものがあります。サブプライムローン(低所得者向け住宅ローン)に端を発した金融不安は、今年9月のリーマンブラザーズ破綻によって一挙に世界経済を直撃、当然のことながらグローバル化の下わが国としてその影響は例外ではありません。アメリカ発の金融工学は複雑怪奇で理解し難いと

ころではありますが、世界の総金融資産が実体経済の4倍弱にまで膨れ上がっていた(人によっては数十倍とも)と聞けば如何に異常であったか…。“証券化ビジネス”なるものは、製造業に身を置き、日夜材料高騰に悲鳴を上げつつも業務改善やコスト低減、販価改善に取り組む当方とすれば「あきれた錬金術」と言う以外言葉が浮かびません。

しかしながら嘆いてばかりもいられません。幸いどんな時代においても「衣・食・住」をベースにした実体的産業抜きに社会経済は成り立たないことは自明の理であり、物流の役割はますます重要視されています。企業としてもここは基本に立ち返り、三国志ではありませんが蜀の諸葛孔明ばりに「現状把握」、「課題の特定」、「優先順位」、「プランニング」、「実行管理」…と冷静に対処する事が肝要ではないでしょうか。この5、6年は大都市圏での排ガス規制による代替需要が旺盛であったこともあり、普通トラックベースで10万台強(2007年度は8万5千台)をマークしましたが、その反動減として向こう4、5年は7万台レベルと非常に厳しい需要予測がなされています。私たちの業界は季節変動の激しい、ある意味“変化対応業”の最たるものと思われます。今大事なことは、環境や安全など時代の趨勢(トレンド)を鋭敏に嗅ぎ取り、企業目標に向かって適宜・適正な判断、施策そして実行へと確実に展開すること、つまり今一度ビジネスの基本に立ち返ることではないでしょうか。

当工業会も、豊かな社会生活をおくるための「働くクルマ作り」という基本に立ち返り、会員間相互の信頼の下、「環境対応への自主的取組み」や「安全性向上への取組み」という重点活動を今後も推し進めていきたいと考えています。